

研究会大会報告

令和4年度秋の研究会大会報告

Report on the CSAJ Study Groups Meeting 2022

令和4年度研究会大会実行委員会
Executive Committee of the CSAJ Study Groups Meeting 2022

はじめに

令和4年度秋の研究会大会が、2022年11月26日～27日にオンラインで開催されました。日本色彩学会にある12研究会のうち、9研究会が参加しました。

11月26日には、色彩文化系3研究会（色彩教材、くらしの色彩、美しい日本の色彩環境を創る）による合同発表会が行われました。日本色彩学会や研究会による活動や企画をより深く知っていただくため、研究会活動・学会企画紹介セッションも設けました。また、夕方にはオンライン交流会も行いました。

11月27日には、色彩科学系5研究会（画像色彩、感性・データ科学・コスメティクス、視覚情報基礎、色覚、測色）による合同研究発表会、カラーデザイン研究会による企画が行われました。色彩科学系5研究会の招待講演では、中内茂樹先生（豊橋技術科学大学・教授）に「絵画配色の好みに見られる普遍性」というテーマでご講演いただきました。

全体の参加申し込み人数は114名でした。両日とも多くの参加者があったことから、色彩文化系のみ、色彩科学系のみと分かれてしまうのではなく、両日ともにご参加いただいた方が多かったと考えられます。通常は個別に活動している研究会が交流を深める、良い機会となったのであれば幸いです。以降、企画ごとに内容をご報告いたします。

（溝上陽子：実行委員長，色覚研究会）

色彩文化系3研究会合同研究発表会

■ 色彩教材研究会

午前は、セッション1で3件、セッション2で3件の合計6件の研究発表が行われました。

- ①吉澤陽介「大型組み立てブロック “RenBlock” の色彩展開の検討」
- ②忍足優菜「高齢者における明度の違いによる色彩弁別能力の評価～100Hue テスト色刺激を適用したカラーカード提示による弁別評価の試み～」

- ③榎芳栄「デジタル教材を用いたカラーコーディネーション演習による示唆」
- ④田森恭子「貴石の色」
- ⑤平山和香子「源氏物語から読み解く平安の色」
- ⑥吉村耕治「岡本太郎が思考した美意識の特徴－言語文化論の視点から－」

今年度の発表内容は、カラーユニバーサルデザインに関わるプロジェクト事例、昨今のテレワーク・遠隔授業に基づいたデジタル教材の提案、宝石に用いられる貴石の紹介と研究へのアプローチ、源氏物語内の単語を抽出して色彩文化の理解に繋げる試み、そして言語文化論の視点における岡本太郎作品の美意識の特徴抽出といった内容で、昨年度と同様に色彩教材研究会ならではの「多様さ」が印象的でした。

発表された皆様には、引き続きブラッシュアップしていただき、春の全国大会に繋げていただければと願わずにはられません。

（吉澤陽介：色彩教材研究会）



3研究会合同研究発表会のグループフォト（午前）

■ くらしの色彩研究会・美しい日本の色彩環境を創る研究会

午後は、セッション1で3件、セッション2で2件の研究発表が行われました。セッション1の、疋田氏らの「一宮・常滑・有松の“美しい色風景”撮影活動の報告」では、日本色彩学会で構築中の「日本の美しい色

風景」サイトのデータ収集活動について報告されました。今夏、愛知県の一宮、常滑、有松を中心に現地撮影会が実施され、数多くの写真データがサイトに投稿されたそうです。各々の感性で撮影された写真群は、地域が育ててきた歴史や産業、まち並み、伝統文化などに裏付けられた「美しい色風景」であることが実感できる報告でした。長屋氏らの「一宮・常滑・有松における美しさの色彩分析」では、「日本の美しい色風景」サイトに投稿された一宮・常滑・有松の色風景データに対し、投稿者が申告する「主要な色彩」の登場頻度を地域別に集計することで心理的色彩と、画像解析ソフトを使用し配色パターンと色相・明度・彩度の分布を可視化した物理的色彩で、3地域の特徴を考察されていました。山下氏らの「一宮・常滑・有松における美しさの感性構造分析」では、「日本の美しい色風景」サイト上に投稿された色風景データにおける対象物の分類を試み、SD法による評価実験と主成分分析から3地域の感性構造や美しさの特徴を確認、美しさの感性構造の比較に有効である可能性が示唆されました。発表ごとに活発な質疑応答が行われ、「日本の美しい色風景」サイトの発展とともに今後の研究が期待される充実した発表であったと思います。セッション2での石丸氏「映像表現におけるストーリー性のカラー表現～カラーグレーディング実践研究～」は、発表者が携わった映像作品を材料としたカラーグレーディングの実例を示し、各条件下に生じた問題をどのような方法で補正し、映画のシナリオコンセプトを当初の色彩計画に基づいた映像イメージで表現することができたのかを検証されていました。渡辺氏の「ファッションプロデュースのためのパーソナルカラーシステムを活用した配色教材制作」は、パーソナルカラーシステムを

活用した配色教材を制作、その教材を実際に用いた配色演習での導入効果について検証されました。新しく制作された配色教材は、演習における配色だけでなく実生活でのファッション・コーディネートに活用するという点において有効であることが示されました。両研究ともに、応用を期待したいと思いました。

(森友令子：美しい日本の色彩環境を創る研究会)

研究会活動・学会企画紹介セッション

日本色彩学会では、様々な研究会活動や教育普及活動を行っており、それらの活動を会員に皆さんに知っていただく機会として、本セッションを企画した。

まず、研究会活動紹介では、「色彩学会の研究会の活動を一挙紹介します！」と銘打って、日本色彩学会で活動している、画像色彩研究会、カラーデザイン研究会、環境色彩研究会、くらしの色彩研究会、視覚情報基礎研究会、色覚研究会、色彩教材研究会、測色研究会、白色度研究会、パーソナルカラー研究会、美しい日本の色彩環境を創る研究会、感性・データ科学・コスメティクス研究会(名称変更予定)の12研究会のうち、くらしの色彩研究会と美しい日本の色彩環境を創る研究会を除く10研究会の活動について紹介していただいた。

また、令和5年度から、くらしの色彩研究会と美しい日本の色彩環境を創る研究会が合併して、新しい研究会を立ち上げる予定になっており、「新研究会発足?! 令和5年度から発足する新しい研究会を紹介します」と銘打って、現在の両研究会の活動からどのように発展させる予定なのかを説明していただいた。9年ぶりの新しい研究会の発足になる。これまでの10研究会と併せて、会員の皆さんの研究会活動への参加をお願いしたい。

続いて、教育普及活動については、「みんなでつくる講座企画 シェアリング・セッションのすすめ」として、まず、好評の「新編 色彩科学ハンドブック」解説講座について、第6回の「照明と肌色・化粧品の色」の講師である吉川拓伸先生から、単にハンドブックの内容の解説だけではなく、刊行後の最新情報についても講座で紹介する予定であることが説明された。また、第7回以降として、栗木一郎先生による第9章「色覚の現象論的特徴」、岡嶋克典先生による第8章「色覚異常[後天色覚異常]」の解説を予定していることが報告された。今後、学会ホームページ等で詳細がアナウンスされるので、興味のある方はぜひご参加いただきたい。



3研究会合同研究発表会のグループフォト(午後)

次に、「みんなで決めよう！2022年の色～MIC「今年の色」の募集・ICDの案内」があった。MICについては既に募集が終わり、学会ホームページに選ばれた2022年の色が発表されているので、ご覧いただきたい。また、ICD (International Color Day) は2023年3月21日(火・祝)午後開催予定であり、今後詳細が発表になるのでこちらも是非ご参加いただきたい。

さらに、新しい取り組みとして、「時代を読み解くキーワード&キーカラーを学ぶ「あたらしい色彩」オンライン講座」と「バズる色彩学会！ソーシャルネットワークサービスでの情報発信」が紹介された。オンライン講座は、2023年2月から2ヶ月に1回の頻度で6-7回の講座を実施予定である。また、ソーシャルネットワークサービス Twitter, facebook, Instagramでの情報発信を今後行うことが紹介された。それぞれのURLおよびQRコードを掲載しておく。登録していただくと幸いです。

https://twitter.com/CSAJ_official

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100083546602024>

https://www.instagram.com/color_science_japan_official/



Twitter



facebook



Instagram

最後に、第54回全国大会とAIC2023の紹介があった。まず、第54回全国大会については、栗野由美実行委員長より6月24日(土)、25日(日)に東京造形大学で開催予定であることが紹介された。内容に関しては、学会ホームページをご覧いただきたい。次に、AIC2023についてChanprapha Phuangsuwan 実行委員 (Rajamangala University of Technology Thanyaburi, Thailand) より、11月28日から12月2日の期間でタイのチェンライで開催予定であることが紹介された。AIC2023の詳細については、<https://aic2023.org/> をご覧いただきたい。

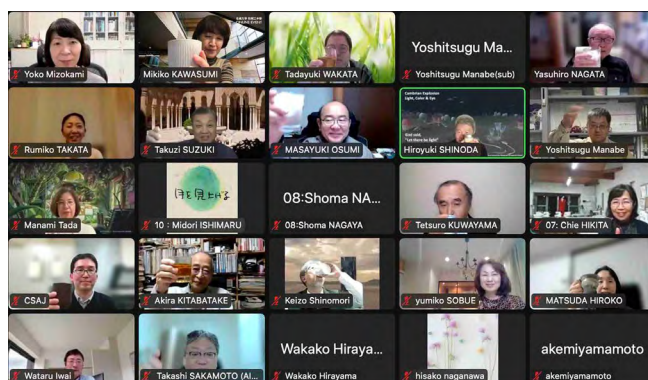
以上のように、日本色彩学会では、様々なイベントや企画、研究活動を行なっている。会員の皆さんにもぜひ参加いただき、学会活動を盛り上げていただければと思う。

(眞鍋佳嗣：理事会リエゾン、視覚情報基礎研究会)

交流会

大会1日目の締めくくりは、オンライン交流会でした。前のセッション終了後の17時過ぎ、休憩を挟んでドリンク片手にリラックスモードで集まったのは、約30名の参加者でした。ほとんどの人がカメラオンにして顔を見せあい、久しぶりの再会を笑顔で喜びました。そして、篠田博之学会長の挨拶と乾杯の音頭を合図に、穏やかに和やかに歓談がスタートしました。各地の気候、各自の近況、最近気になっているトピックスなど、さまざまな話題が途切れなく続きました。この交流会はスケジュール上では2時間を予定されていて、長すぎるのでは?とと思っていましたが、1時間経っても半分以上の人たちが残っていて、結局、予定時刻を過ぎてもおしゃべりが続きました。大会1日目は朝から最後まで特に問題なく運営することができ、実行委員としてホッとした気持ちで、のんびりと皆さんの話に耳を傾けたひとときでした。

(川澄未来子：くらしの色彩研究会)



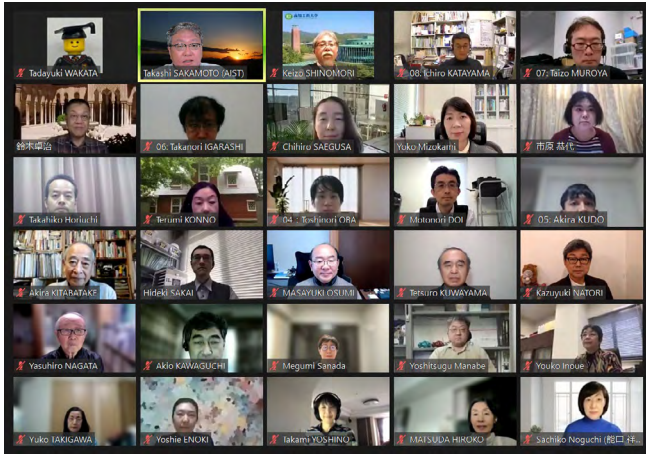
交流会参加者によるグループフォト

色彩科学系5研究会合同研究発表会

色彩科学系5研究会による合同研究発表会は、2022年11月27日(日)10:00から15:00まで、3つのセッションと1つの招待講演を設定した上で、昨年に引き続きオンライン形式(Zoomミーティング)で開催された。研究発表数は(招待講演を除くと)合計8件となり、昨年と同数であった。コロナ禍の状況にも関わらず、多くの参加者(90名ほど)がZoomに接続をして、非常に興味深い発表と活発な討議がなされた。午前と午後のセッション後には、登壇者およびZoom参加者から承諾を得た上で、集合写真(グループフォト)の撮影を実施した。



5研究会合同研究発表会のグループフォト(午前)



5研究会合同研究発表会のグループフォト(午後)

午前中のセッションでは、若手研究者および学生による5件の研究発表で構成した。セッションの詳細は以下の通りであった：

■セッション1(10:00～10:40)

座長：堀内隆彦(視覚情報基礎研究会主査,千葉大学)

1. 「ヒト抜去歯のホワイトニング前後の表面構造の変化と物理計測及び知覚白色度との相関」, 田中美裕(大阪大学), 大住雅之(オフィス・カラーサイエンス), 若林一道(大阪大学)
2. 「タブレット端末を用いたアノマロスコープによる色覚検査の自動化」, 杉本孝太, 佐伯昌造, 佐々木隆志, 川原稔(愛媛大学)

■セッション2(10:50～11:50)

座長：坂本隆(感性・データ科学・コスメティクス研究会主査, 産業技術総合研究所)

3. 「色覚特性別の記憶色の差異に関する研究」, 中野希美, 市原恭代(工学院大学)

4. 「眼窩前頭前野の反応に着目した照明環境下における色彩と香りの調和の解析」, 大場俊範, 山下岳, 田中緑, 堀内隆彦(千葉大学)
 5. 「物体の形状と照明の拡散度が質感の再現性に与える影響」, 工藤晃(千葉大学), 土橋宜典(北海道大学), 佐藤弘美, 溝上陽子(千葉大学)
- 午後の招待講演後のセッションは、各研究会にて活躍中の気鋭の研究者による3件の研究発表で構成した。セッションの詳細は以下の通りであった：

■セッション3(14:10～15:10)

座長：鈴木卓治(画像色彩研究会主査, 国立歴史民俗博物館)

6. 「その芸術家はいかにしてリアルな肌を再現したのか? - 作品に仕掛けられた色彩・質感表現法を探る -」, 五十嵐崇訓, 三枝千尋, 野村美佳, 今井健雄, 引間理恵(花王)
 7. 「絵画画像の微細色面の再構成に基づく色彩分析の試行」, 室屋泰三(国立新美術館)
 8. 「「きもの」の配色イメージスケールの導出」, 片山一郎(近畿大学), 能口祥子(きものカラーコーディネーター協会), 高田瑠美子, 瀬川かおり(女子美術大学)
- いずれの発表も大変興味深く、活発な質疑応答がなされた。議論を尽くすには、やや時間不足であったが、いずれも挑戦的な研究内容であり、ぜひエビデンスを重ねて査読論文にまで結び付けてもらいたいと感じた。非常に実りの多い研究発表会となったので、次年度以降も同様の企画が開催されることを期待したい。

(坂本隆：感性・データ科学・コスメティクス研究会)

招待講演

色彩科学系5研究会の招待講演では、豊橋技術科学大学の中内茂樹教授に、「絵画配色の好みに見られる普遍性」というテーマでご講演いただいた。先生のご研究では、絵画の配色という、純粋に画家の感性が反映されるように思えるものでも、多くの人の好みが一致することを示された。実験では、絵画の空間構成は変化させず、色相だけを変化させる方法を用いて、絵画配色に対する選好を調べた。この操作によって色相回転させた3種類のニセ画像と原画に対して最も好きな配色を参加者に尋ねる実験を行なわれた。その結果、初めて見る絵画に対しても多くの人が原画の配色を好むことが示された。しかも、その好みは実験参加者の国籍、絵画の種類によらず共通していた。今回発見された絵画配色に対する選好の普遍性は、私たちが

感じる「美しさ」といった感性的なものが、文化的背景や教育経験だけでなく、何らかの生物学的な共通基盤を持つことを示唆している。ご講演は、色彩科学系、色彩文化系のいずれの観点からも大変興味深い内容であった。講演後の質疑応答では、質問が途切れず、議論が活発に行われた。

(溝上陽子：色覚研究会)

カラーデザイン研究会

カラーデザイン用語について、講演およびディスカッションを行いました。2022年3月に日本色彩学会会員を中心とした改定委員会によって、JISZ8105色に関する用語が改定され、ベースカラー、アクセントカラー、清色、濁色といった、これまで収録のなかったカラーデザインに関する用語が57語、新規に追加されました。産業規格化されたことに伴い、これまで以上に用語の重要性が増していくと思われまふ。講演会では、研究テーマの趣旨説明の後、長年デザイン業務や色彩教育に携わってこられた山下明美先生に「ビジュアルデザインと配色2」と題して、企業における色の扱い方、配色の考え方、色彩のみによる商標について、ご講演いただき、その後、配色用語の定義等を中心に、ディスカッションを行いました。ディスカッションでは、参加者からつぎつぎに意見が出されました。カラーデザイン研究会では、引き続き、これらの用語を確認し、その意味を正しく理解することを目的に研究を進めて参ります。

(酒井英樹：カラーデザイン研究会)

優秀発表奨励賞

優秀発表奨励賞は色彩科学系5研究会合同研究発表会の発表において、申し込み時にエントリーした若手研究者の中から優秀な発表を表彰するもので、今回は5件のエントリーがあった。各研究会から2名ずつ、合計10名の方に審査委員をお願いし、厳正な審査を行った。お忙しい中審査にご協力頂いた審査委員の皆様がこの場をお借りして深く御礼申し上げる。審査は採点方式で行うが、今回は優れた発表が多く、特に受賞者と次点の方は僅差だった。また、審査委員からのコメントには、今後の研究の進展に期待するコメントもあった。受賞されなかった発表者も、質疑応答を参考に今後研究に励んで頂きたい。

審査の結果、千葉大学工学部 工藤晃氏(講演題目「物体の形状と照明の拡散度が質感の再現性に与える

影響」)に優秀発表奨励賞を授与することを決定した。研究会大会のクロージングセッションにおいて優秀発表奨励賞受賞式を行い、受賞者である工藤晃氏に受賞コメントを頂いた。また、受賞者には表彰状と副賞として盾が後日郵送で贈られた。

(土居元紀：色彩科学系5研究会合同研究発表会優秀発表奨励賞審査委員長)

おわりに

今回の研究会大会は、過去2回の研究会大会(旬間)でオンライン開催のノウハウも蓄積されていたことから、ほとんどトラブルもなく、大変スムーズに運営することができました。また、2日間のコンパクトな開催ながら、大変興味深いご発表が多数ありました。多くの方から、普段あまり接することのない分野の活動を知る良い機会になったとのお声もいただき、研究会大会の目的を果たすことができたのではないかと思います。成功裡に終了できましたのは、これまでにオンライン学会環境を構築して下さった歴代実行委員のみなさま、今回の運営にご尽力いただいた実行委員のみなさま、きめ細かくご対応いただいた日本色彩学会事務局、そしてご発表、参加いただいたみなさまのご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

With コロナ時代に入り、学会も対面開催が増えつつあります。一方で、オンライン開催には、どこからでも気軽に参加できるという利点があります。今後は、対面とオンラインを効果的に使い分けて、研究会活動および研究会間交流を発展させていくと良いのではと思います。次の機会に、みなさまにお目にかかることを楽しみにしております。

(溝上陽子：実行委員長、色覚研究会)

令和4年度研究会大会実行委員会

溝上 陽子(実行委員長、色覚)

大住 雅之(測色)

川澄 未来子(くらしの色彩)

酒井 英樹(カラーデザイン)

坂本 隆(感性・データ科学・コスメティクス)

鈴木 卓治(画像色彩)

森友 令子(美しい日本の色彩環境を創る)

吉澤 陽介(色彩教材)

眞鍋 佳嗣(視覚情報基礎、理事会リエゾン)